

**平成28年10月21日
鳥取県中部地震記録誌**

鳥 取 県

鳥取県中部地震記録誌の発刊に寄せて

鳥取県知事 平 井 伸 治



「鳥取県中部地震」の発生から2年が過ぎました。

この記録誌は、特徴のある地震であった鳥取県中部地震の概要や被害状況、災害対応や復旧・復興に向けての取組、関係団体や住民の皆様の御体験などを記録し、振り返ることができるように編纂したものです。

近年、記録的な災害の発生が相次ぐようになっており、この度の経験や記録が、次なる災害への備えや対応の一助となれば幸いに思います。

さて、鳥取県中部地震からの復旧・復興においては、まずはできるだけ迅速に「復興」を進め旧に復すことに意を尽くし、更に、幸福を興す「福興」を目指すことを、地域一丸となって進める挑戦を続けて参りました。その中で、前例にとられることなく、一部損壊家屋に対する住宅再建支援や、災害ケースマネジメントによる被災者に寄り添った生活復興支援など、全国で初めての施策にも取り組み、眼前に立ちはだかる課題を一つひとつ乗り越えて参りました。

地域の皆様が心をついに力を合わせられたからこそ、鳥取県らしい人と人との絆を活かしながら、住み続けるふるさと、住み続けたいふるさとへ、また、地域の元気の創出に、更に一步、もう一步と進むことができました。「福興」から更に高みを目指す「福高」へ、次なる歩みが始まりました。皆様の御尽力、温かい御支援、御協力に心から御礼を申し上げます。

今後ともお力添え賜りますようお願い申し上げますとともに、災害のない平和なふるさととなりますよう、お祈り申し上げます。

鳥取県中部地震を鳥取県知事あいさつから振り返る

■鳥取県中部地震への災害対応について

10月21日の地震であります。実は特徴ある地震だということが最近の研究でわかってきています。ただそのメカニズムは、あの時を思い出せば私たちにはさっぱりわからなかったわけです。ただ周りを見れば、あれも壊れているこれも壊れている、とにかく避難しなければいけない、お年寄りがいる、耳の聞こえない方々などハンデキャップを負った方々もいる。そういう中でやるべきことを全力でやらなければならない。その辺の瞬発力が地域の防災力として試されるわけがあります。

今回、幸いにして死者がなかったということでございますが、あの危機の中で三朝町消防団ではばっばと的確に指示を発して、それで全体が動いた。三朝町では20人に1人が消防団員で全国で見ても非常に手厚い状況があるわけです。そういう中でこそ、行方不明の方の救出ができ、亡くなる方をくい止めたわけです。

また、支え愛マップをつくっていたところはうまくいったという話がございますし、普段から公民館に備蓄を自分たちでもされていた。食べ物のことだけでなく、いざという時に

使える工具なども置いていた。さらに日ごろから訓練をされていたものですから、訓練のすぐ後に今回の地震がきた。普段からやっていることがいざという時に本当に活かされて命を助けたり、生活の再建に向けた動きを早めることができるのもそういう地域の防災力がある地域だからであります。

地域で動くことで変わるんです。災害に立ち向かうことができるんです。何より国が来るのを待つのではなく、私たちからまず動くこと、この当たり前のことができたのが鳥取ではないかとそこは誇っていいと思います。

でもまだまだ足りません。そこで防災危機管理の条例を改正させていただきました。支え愛避難所という新しいスキームを作ってみたり、支え合いで支援する活動を応援しようとするのを制度化させていただきました。大雪の時もこうしたことが私たちのふるさとではできたのであります。全国どこにも無い、一番安全なふるさとを地域の防災からつくっていければと思います。

(鳥取県中部地震1年フォーラム(平成29年10月21日(土))あいさつより)

■鳥取県中部地震からの復興について

私たちは今傷ついたこのふるさとを直すことだけで終わりではないと思っています。実は元々から人口減少などの悩みがあったり、産業をはじめ経済の活性化について課題のあった地域でありまして、今回の被災でそれがいっそう加速されることになってはいけません。したがって、マイナスをゼロにするだけでなくプラスに変えていかなければならないのだと思います。

いろんなところで住宅の修繕がいつできるかのお声を伺うわけでありまして。地域の中でも知恵を出して、例えば町内会ごとにまとまってある程度前に進められないとか、いろんなやり方があるんじゃないかと思います。また民間の住宅に限らない様々なまちづくりの再興などもあるわけでありまして。こうしたところには県としても復興活動支援センターを作ったり、特別の支援制度を作ったりということも考えてみてはどうかと思います。

ここ中部には大きな力があります。それは住民の皆さん、

企業、あるいは行政サービス、大学、そうしたところがたぶん全国でも一番近い距離でお互いに頑張っていけるところだと思います。例えば「ほっとここ」という子どものための食堂を作ろうというのが地震で頓挫していました。そこで住民の皆様が資金を出し合い、12月にオープンをするということが叶いました。さらには、お正月には多くの方々、ボランティアと一緒にお正月を楽しむような行事をされるところです。銭湯がよみがえったり、三朝の吉田ではみんなの力でお年寄りを探し出して助けたり、そうしたいろんないい話も重なりはじめているところです。先般、成人式が各地で開かれました。そういう中で、私はまたふるさとに帰ってきて役に立ちたい、そんな声がそれぞれの市や町で聞こえたところでありまして。地震がかえって私たちのふるさとを強くするのではないかと、それが私たちが目指すべき本当の復興ではないかと思っています。

(第1回鳥取県中部地震復興会議(平成29年1月13日(金))あいさつより)

■復興の総仕上げに向かって

あれからもう2年、皆様がそれぞれの分野で大活躍をされました。こういうふうな、いわば地域のネットワークが確認をされ、それが機能し、強化をされ、きょうの日までたどり着くことができたと思います。振り返ってみますと25名の方がけがをなさいました。またり災証明、全部でおおよそ2万ぐらいのり災証明が出されています。それだけ多くの家屋被害があったということが、今回の地震の特徴でありました。

そういう意味で、関係者の方々も御商売のこともありますが、どちらかというボランティアや、あるいは地域貢献の考え方で、身を粉にして働いていただきまして、県外の方の応援をいただいたりしながら取り組んでまいりました。その結果として、ブルーシートも外れかけてまいりまして、もう2年前の今ごろの発災直後のころ、ざあっと真っ青になった屋根の様子を思い出しますと、大分落ちつきの出た町並みに戻り始めたのではないかなというふうにも思います。

また、地域の商工会議所、商工会などの御協力をいただきまして、そうした被災した企業の立ち直りを支えるということも、県も補助金や融資を用意しまして進めてまいりました。今日まで大体7億ぐらいの補助が執行され、147億の融資、無利子融資が出ていくということになりました。それで、企業もそれぞれ戻り始めてきております。中には、過去のそうした被災を乗り越えて、まさに未来に向かって業容を拡大しようというところも出始めてきたところがございます。

観光など非常に傷ついたところでありましたけれども、今、お客さんは何とか取り戻した状況になっていると思います。

また、農林水産の被害も広がりました。特に選果場の被害であるとか、あるいは漁港施設の被害であるとか、また牛乳工場も一部被災をしたということもございました。このあた

りも前に向いて進み始めまして、このたびスイカなども過去最高の単価を記録するというように復調を遂げてきているところがございます。

こうして一步一步、私たちは災害対応を進めてまいりました。ただ、まだまだ届かないところがあります。それは、生活にもともと苦しみを感じていたところ、いろんな事情を抱えておられる御家庭がどうやって立ち直っていけばいいかということがいまだわからずに相談もできかねていた世帯などがありました。今、災害ケースマネジメントにより、約75世帯を対象に取り組んでいるところがございますが、こうしたこととあわせて実態調査も進めてまいりました。そういうようなことをもとにいたしまして、ほかの地域のどこにもないような、今、生活に密着した復旧対策、復興対策を進めています。今、私たちは単に戻すだけではなく、幸福を起こし、そして幸福を高めていく、そういう未来志向の復興に進んでいかなければなりません。

「ずり落ちた瓦、踏みならす人という」これは河東碧梧桐さんの句なんですけれども、河東碧梧桐さんは関東大震災のとき、東京の文京区に住んで、小石川にいたわけでありまして、家のほうは何とかもったようではありますが、ただライフラインのほうの課題があったということで伺っております。それで、もうあちこち崩れ落ちる中で、ちょうどこの中部のようなことだと思いますが、瓦が地面にどんどん落ちている、それを危ないので片づけもあるし踏みならしている、そんな人の姿があったということでもあります。この国はこうした地震というものが繰り返されてきています。しかしそれを乗り越えて、今の東京の町があったり、神戸の町があったりします。私たちにそのことができないはずがないわけがあります。我々なりの新しいふるさとづくりに乗り出してまいればと思います。

(第5回鳥取県中部地震復興会議(平成30年10月21日(日))あいさつより)

目次

鳥取県中部地震記録誌の発刊に寄せて

鳥取県知事 平井伸治

第1章 震災への備え ～これまでの経験と予兆～

I 本県の地震に対する事前対策	2
II 鳥取県中部地震の背景	5

第2章 震災の記録

第1節 震災の記録

I 地震の概要	8
II 被害の状況	11
III 応急対策活動	15
IV ライフライン・インフラ応急対策	26
V 災害関連死ゼロを目指した取り組み	29

第2節 被災者の住宅・生活再建支援

I 被災建築物の応急危険度判定、被災宅地の応急危険度判定	32
II り災証明の発行	34
III 住宅再建支援制度	36
IV 支援施策の概要	38
V 災害ケースマネジメント	49

第3節 地震を教訓とした取り組み ～復興を目指して～

I 復興対策	52
II 地震を教訓とした取り組み	60

第3章 震災を振り返って ～震災体験談～ 64

第4章 中部地震関連新聞記事 102

第5章 知事記者会見録 124